

＜ 運営推進会議における評価＞ ※公表用

【事業所概要】

法人名	特定非営利活動法人地域福祉活動支援協会 人間大好き	事業所名	看護小規模多機能ホーム あったかい家
所在地	(〒739 -2101) 東広島市高屋町造賀2 4 1 - 1		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

<p>・要介護者が可能な限りその自宅において、その有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことができるよう、通いを中心として訪問、宿泊訪問看護を組み合わせて、家庭的な環境と地域住民との交流の下で、入浴、排泄、食事等の必要な日常生活の援助及び訪問看護による体調管理を行うことに事業所では力を入れている。在宅生活で困難となっていることをご家族とともに考え、ともに支援していくようにしている。</p>

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2019 年 11 月 20 日	従業者等自己評価 実施人数	(21) 人	※管理者を含む
----------------	---------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2020 年 3 月 16 日 (書面会議)	出席人数 (合計)	(9) 人	※書面会議のため委員のみ
出席者 (内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員 (〃) <input checked="" type="checkbox"/> 市町村職員 (1) 人 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 (〃) 人 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民の代表者 (4) 人 <input type="checkbox"/> 利用者 (〃) 人 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の家族 (4) 人 <input type="checkbox"/> 知見を有する者 (〃) 人 <input type="checkbox"/> その他 (〃) 人			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
			自己評価	運営推進会議における意見等
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<p>①医療ニーズに対する利用者の支援方法の職員教育を看護師による内部研修や社外研修を利用し教育を行う。重篤利用者への対応方法等職員の知識能力向上を行う。</p> <p>②職員の情報共有について、連絡ノートや朝礼時の伝達、打ち合わせを行っているが支援会議体を設け利用者のニーズ、家族への対応等打ち合わせを定期的に変更して職員に周知徹底させる。</p> <p>③災害時でのマニュアルはあるが、夜間等を想定した訓練を今後繰り返し実施していき実際の行動に即したマニュアルの整備していく。</p>	<p>①内部研修もできていない。</p> <p>②連絡ノート、伝達事項も朝礼などで報告したり、伝達掲示板(ホワイトボード)を活用して周知徹底に努めた。</p> <p>③夜間の訓練も実施できず。マニュアルは作成はしてあるが改良ができていない。</p>	<p>施設理念に基づき、職員ひとりひとりが方針をしっかり理解し看護・介護従事者として業務に関われるよう研修を定期的実施できる体制を作るべきである。</p> <p>・薬に関することや緊急時の対応などの取り決めを行い、管理などの環境整備を早急に行う必要がある。</p> <p>・会議は月1回開催しているが研修がしっかり実施できていない。そのため、職員間で情報の共有が取れていない。</p> <p>・施設管理等が円滑にできていない。</p> <p>・管理者自体の体制がうまく取れていない。</p>	<p>・薬の保管方法が統一されていない等</p> <p>・事業運営上、改善すべき点がある。</p> <p>・基本理念をさらに具体性を持たせる工夫が必要。</p> <p>・人材育成ができるよう研修を行える環境をつくる必要がある。</p>

<p>Ⅱ. サービス提供等の評価</p>	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供</p> <p>(評価項目 11～27)</p>	<p>①利用者受け入れ時や日々の状態の観察などアセスメントを行い対応しているが職員間での情報共有を細部まで充実させるため、定期的な支援会議体を設け展開していく。(家族、利用者、看護師、関係者等の聞き取りを含め)</p> <p>②単独で判断せず職員間でお互いに声を掛け合い、利用者の状態に応じたケアを皆で検討し実施していく。</p>	<p>①新規利用者の受け入れは情報提供の提示や朝礼などでの連絡を行っているが新規利用者に関しては月1回の会議でカンファレンスを行うようにした。</p> <p>②個々の関わりの中での不安や解決策を職員間で出し合う会話が増えてきた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・看護職員と介護職員の考え方やとらえ方のズレがある。問題解決に向けて検討するミーティングなどが十分できていない。 ・看護から薬の変更や中止などの情報伝達がうまくできておらず、介護から指摘を受けることも多い。 ・看護小規模多機能居宅介護の役割の認識が足りない。 ・家族や職員間の情報共有がまだまだ改善すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の情報を把握し、スタッフ間で共有する必要があるのではないかと。 ・看護と介護の個々の良さを引き出しサービスの質の向上に努めてほしい。
----------------------	--	---	--	--	---

	<p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)</p>	<p>① かかりつけ医・主治医などの医療機関との連携を構築していく。(必要があれば都度相談しコミュニケーションを図っていく)</p> <p>② 独居の利用者様等に関しては、家族・民生委員・包括支援センターと連携して対応していく。また定期的な支援会議体でも取り上げ対応していく。</p> <p>③ 連携を進めていくと同時に、医療連携室や包括支援センターの役割の勉強会を職員の中で定期的実施していく。地域との関わりを持つ為、地域の行事や包括会議等へ積極的に参加していく。</p>	<p>① 各かかりつけ医などの医療機関との連携を密にし、指示書の作成依頼や救急時の対応を連絡しながら対応を行った。</p> <p>② 独居の利用者に関しては常に声をかけるようにしている。送迎時などにも周辺などにも気を配るようにしている。</p> <p>③ サロン開催時に講師を招いて健康に関する話をしてもらったり、地域の行事にも参加した。</p>	<p>・利用者の主治医との連携はできているが、その他の他業種との連携をさらに強化すべき。</p> <p>・独居の高齢者の支援の強化を行うため、家族や民生委員、包括支援センターと連携し問題解決できるよう包括支援センター等との連携するよう意識して動き始めている。</p> <p>・看護小規模多機能の複合型サービスを行っている以上、健康に関する勉強会などの開催は必要と考える。専門家による相談や助言が気軽に行える環境整備が必要である。</p>	<p>・かかりつけ医、他事業所、地域と連携できるようさらに強化に努めてください。</p>
--	--	---	---	--	--

	<p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32~41)</p>	<p>①地域の方とのコミュニケーション作りサロンを毎月開催し地域に根差した活動を行っている。また地域の行事等に積極的に参加していく。また運営推進会議等を利用し活動の具体的内容を報告して活動内容を理解してもらう。</p> <p>②気軽に相談できる事業所の窓口としてPRしていく。(HPや広報の活用)利用者家族や地域の方へ展開していく。</p> <p>③地域とのコミュニケーション能力を向上させ、何でも相談できる事業所にする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回のサロンを開催し、地域の方にも参加してもらっている。2019年12月に地域の定例会に出席し2020年1月より地区の組に加入。その際のサロンの紹介などもさせてもらう。また、運営推進会議にて活動状況の報告を行なった。 ・Facebookなどで日常の活動や広報活動を行う環境を作っているがアップが少ない。 ・地区の行事に利用者と出向いたりしているがまだ、開かれた事業所にはなっていないのが現状。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サロン開催でコンサート系は人気があった。看護小規模多機能の特色を出すため医師や看護、薬剤師などの医療機関の専門家による健康講座の開催も強化し参加される方が興味を沸く内容や参加者に参加後にどうあって欲しいかを考えた計画を行い実施する。 ・広報は参加登録者への連絡とフェイスブックなので地域に向き、地域活動への参加を行い地域との連携強化する。 ・2020年1月より地区の組に加入し定例会や掃除活動などに積極的に参加していき、利用者を含め地域行事に参加し地域の方々との関わりを増やしていく。 	<p>・地域との連携を引き続き行い、相互理解を深め、地域にとってなくてはならない事業所になってほしい。</p>
--	--	---	--	---	---

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<p>基本理念をさらに深く追求し、職員の人材育成が強化できるしくみづくりが求められる。研修を強化するとともに、職員自身が仕事に誇りが持てるように情報共有や意識づけができる体制を構築しなければより良いサービスを提供することができない。</p> <p>緊急時の速やかな対応ができるよう、訓練や研修を行い安心・安全な施設運営が不十分である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・看護小規模多機能ホームの仕組みを理解し、医療ニーズに対する利用者の支援方法やサービスの向上を図るための職員教育を行うため内部研修や社外研修を利用し教育を行う。 ・職員の情報共有について、連絡ノートや朝礼時の伝達、打ち合わせを行っているが支援会議体を設け利用者のニーズ、家族への対応等打ち合わせを定期的実施して職員に周知徹底させる。 ・身体的緊急時の対応や災害時でのマニュアルを見直しを行い様々な状況を想定した訓練・研修を実施し環境整備を行う。 ・車輛点検や防火・防災に関する対策の強化。特に夜間を想定した訓練は消防局からの指摘課題であり実施する。 	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	<p>利用者の情報をしっかりアセスメントし共有する必要がある。日常の状況を様子観察し記録を取る。分からないことは家族から情報を得る。また、施設内の状況などを家族にも連絡ノート、電話連絡、送迎時に伝達をとるよう職員間、家族間でできるようになってきている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントシートをもとに、基本的情報や身体的状況の把握を行い、職員も情報共有できる体制をつくる。 ・家族からの情報だけではなく、利用時の状況などを家族に提示できるよう密に関係づくりができるよう働きかける。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	<p>包括支援センター・利用者のかかりつけ医、他事業所との連携を図り、在宅生活が円滑にできる対応、家族への助言、終末期(看取り)への取り組みなどのサービスの向上に努め、連携体制を作り始めている。</p> <p>看取りや緊急時の対応などの研修を行い、対応方針などを情報提供できる基盤をつくるべきという意見もあり、看取りができる体制づくりと緊急時の対応についてまだ不十分な点もある。</p>	<p>かかりつけ医だけでなく、包括支援センターや医療機関、地域資源との連携を図り、円滑な対応ができるよう、信頼関係を築くことができるよう働きかける。</p> <p>看取りや緊急時の対応に関しては、人員確保や研修を積みながら、体制づくりに努める。</p>

	<p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32~41)</p>	<p>サロンは毎月実施を継続する。地域に事業所の活動を知ってもらうため、ホームページや他の利用者のご家族に対してもっとお知らせ等の広報を出していく。 運営推進会議等、事業所内での研修計画や事故報告も大事だが、事業所の活動としてサロンなどもっと運営推進会議で具体的な内容や活動結果を出してみよう意見を求めていく。</p>	<p>看護小規模多機能型居宅介護事業所が地域の窓口となるため、事業所自体が地域に溶け込み、地域の定例会や地域活動に積極的に参加。利用者も地域に溶け込めるよう、地域行事にも参加できる体制をつくる。その一環としてサロンにも地域住民の方に参加してもらい、地域の方も気軽に来所でき相談・助言ができる開かれた施設になるよう運営推進会議等で改善していく。</p>
<p>Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42~44)</p>	<p>利用者や家族意向に沿えるよう意見や要望を取り入れながら質の高いサービス提供に努めていく必要がある。</p> <p>看取りや緊急時の対応などに関しては看護師を中心に研修と体制の基盤づくりをする必要がある。介護職員もサポートできるよういざという時の基本的な知識と技術指導を要する 看取りは考えていかななくてはいけないことだが、現状では難題。様々の状況を考えながら実施していく予定。</p>	<p>利用者や家族の要望や意向に速やかに対応し解決できるよう努めていく。利用者や家族に寄り添い安心・安全に在宅と事業所を行き来できる体制づくりをする。</p> <p>看取りや緊急時の対応の研修。看取りに関しては、事業所と家族だけでなく他業種と連携（医療機関） 看取りは対応が整っておらず対応できないため、現段階では難しい問題。将来的には必須のサービスなので、いざという時の対応に困らないよう検討していきたい。</p>	

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
I 事業運営の評価 [適切な事業運営]							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている	4	6	10	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理念の見直しが真の実りあるものになるように願う。 ・ 改めて介護施設の大変さを知った。 ・ 自分が思うには全てを含む理念等はよくできていると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している	4	11	6	1	<ul style="list-style-type: none"> ・職員によって意識サービスに差がある ・従業員全員が複合型サービスの長所や短所を把握することは事業所運営面（サービス提供や広報など）で大切なことではないか。 ・独自の理念に基づいてよくできていると思う。自分たちも初めてのことなのでよく分かりませんが自分の目でみる限り申し訳ないくらい良くして下さるので感謝している。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している	0	9	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・各職員の中長期的な「育成計画の作成」がされているかどうか分かりにくい。 ・各職員が向上心を持ちチームの一員として頑張っていける様々な機会をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します ✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 ✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
		の提供ができる話し合いの場を増やす。				・よくできていると思う。	
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している	0	12	8	2	<p>・研修などの機会を確保されることで参加意欲も高まるのではないか。</p> <p>・よくできていると思う。</p>	✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている	0	7	15	0	<p>・情報共有の機会やツールがあっても意識づけしなければ無用なものになる。</p> <p>・連絡がうまくできていないと思うことがある。</p> <p>・</p>	<p>✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します</p> <p>✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます</p>
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要	0	8	14	0	・全体への周知が必要	✓ 「得られた要望・助言等のサービ

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできてい	あまりできていない	全くできていない		
	望、助言等を、サービスの提供等に反映させている	運営推進委員会の議事録を回覧という方法で行っている。運営推進委員会での意見をもとにさらに業務改善会議で検討していく仕組みづくりが急がれている状況である。					スへの反映」の視点から、充足度を評価します
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が安心して働くことができる就業環境の整備に努めている	4	10	8	0	<ul style="list-style-type: none"> ・就業環境の整備が整うことで職員のモチベーションやスキルアップにつながり向上する工夫が必要。 ・色々と気を使って頂いているが歳をとってお手伝いができないので申し訳ない。 ・負担になりすぎないように長く続けてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します ✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます
〔具体的な状況・取組内容〕 職場の雰囲気作りやマニュアルの整備は努力して改善しようとしていたが考え方の食い違いで解決できていない。仕事がしやすい動線や業務内容の工夫が必要。							
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている	1	11	10	0	<ul style="list-style-type: none"> ・知恵を出し合って頑張りたい。 ・これからも情報共有のため柔軟な工夫をして欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します
〔具体的な状況・取組内容〕 連絡ノート・朝礼等での情報の申し送りや打ち合わせを行っているが、不徹底だったので、							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		ホワイトボードに連絡事項を記載したりシフト表に添付するようにしている。					
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている	1	9	12	0	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なリスクを想定し、常に対策を考える必要がある。 ・施設前すぐが道路なので十分気を付けてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている	0	15	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時の様々な場面を想定しての訓練が必要。家族としても常に意識づけをしていきたい。 ・緊急時にはみんなでよく話し合っ て日頃からよく確認してほしい。 ・緊急時の対応は家族にとっても心配なところ。一昨年の災害時には助かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		救急法などの知識・技術を習得しいざという 時の対策に努めていく。					
II サービス提供等の評価							
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							
① 利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や 家族等介護者の状況等を含 む、利用者等の24時間の暮ら し全体に着目したアセスマン トが行われている	1	8	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・複合型サービスにおいて重要な項目だと思う。 ・家族からの情報提供もしっかりしなければ難しい。今後は家族としてもしっかり考え協力していきたい。 ・家での生活のことをそれほど聞かれたことがない。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの 視点から実施したアセスマン トの結果が、両職種の間で共 有されている	1	6	15	0	<ul style="list-style-type: none"> ・職種間の共有は大切なことなので相互理解、アセスメントの共有をして欲しい。 ・素人なので両職種で共有することを望む。 ・専門的なことは別として介 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有さ

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		いく。				<p>護・看護職区別なく対応してほしい。</p> <p>・あまりできていないという自己評価になっているため改善できるとよい。</p>	<p>れることが望ましいといえます</p>
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている	2	8	12	0	<p>・家族に寄り添った計画が作成されている。</p> <p>・家族からも細かな情報を提供していかなくてはいけないと思う。</p>	<p>✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます</p>
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている	1	10	11	0	<p>・今後も利用者の機能の維持向上につなげてほしい。</p>	<p>✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 「利用者が尊厳を持って、その有す</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		の維持向上に留意していく。					る能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている	0	8	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・状況変化に合わせ計画作成している。 ・突発的な状況にも柔軟に対応してもらっている。 ・「あまりできていない」が過半数を超えているが、なぜできていないと感じているのか確認し改善してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている	1	12	9	0	<ul style="list-style-type: none"> ・計画書へ反映してもらっている。 ・家族からも情報提供をしっかりと行っていないかと反省している。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している	0	6	16	0	<ul style="list-style-type: none"> 生活状況の変化、利用者の変化もあるなかで家族としても本人の負担にできるだけならないよう相談していきたい。 利用者宅を毎月1回以上、訪問できているのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている	3	15	4	0	<ul style="list-style-type: none"> システム構築が完成したら利用者にも流れを教えてください。 	<ul style="list-style-type: none"> 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	る						
(3) 介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている	2	16	4	0	・今後もそれぞれの専門性を活かした役割分担によりよりよい事業所を期待している。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うこと
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている	2	6	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・時々、情報共有できていないかもと感じる。 ・過半数があまりできていないとされている理由を聞き取りやその改善策を検討してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、 疾病予防・病状の予後予測・ 心身の機能の維持回復などの 観点から、情報提供や提案等 を行っている	3	8	11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・研修や事故研鑽による全体のスキルアップを希望する。 ・常に情報共有してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます
(4) 利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等 について、分かりやすく説明 し、利用者等の理解を得てい	2	13	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・都度、説明をもらっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 看護師による施設内研修もしっかり開催できていない。日頃よりどのようにすべきか相談しながら予後予測に見合う対応を模索している。					
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 口頭の説明だけでなく、サービス計画等を用					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	る	いて説明している。具体的に費用やその都度 の実費負担についても説明している。					
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅で の療養生活の継続に向けて留 意すべき点等について、分か りやすく説明し、利用者等の 理解を得ている	1	13	8	0	・ 今後も必要時には説明をお願 いしたい。	✓ 「利用者等の理解」について、充足 度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 看護師や、ケアマネより必要に応じて判りや すく説明している。					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医 療機器の取り扱い方法、家族 等が行うケアの提供方法等 について、分かりやすく説明し、 利用者等の理解を得ている	2	13	7	0	・ 説明されていると聞いて安心 した。	✓ 「利用者等の理解」について、充足 度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 看護師から必要に応じて判りやすく説明して います					
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表 示ができない場合は家族等） の希望や意向を把握し、サー	0	7	15	0	・ 意向に沿ったサービスをし てもらっている。	✓ 「サービス提供への適切な反映」 について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 利用者及び家族の意向を踏まえサービス計画					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	ビスの提供に反映している	を作成している。					
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている	2	10	10	0	・状態の変化に応じ柔軟に対応してもらっているが、家族は時に考えが固まってしまっているので対応策などの提案して頂くとありがたい。	✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 状態の変化に応じてモニタリングやサービス計画の見直しを行い利用者、家族と相談共有するようにしている。もっと細やかに対応の必要がある。					
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している	0	0	15	7	・とても大切なことなので今後の様々な研修を希望。 ・研修ができていないのか？できていないのか？	✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
		[具体的な状況・取組内容] 現状の利用者の生活リハビリや機能訓練を重視したサービスを展開しており、今後、説明が必要な利用者には経過を説明できるよう教育や研修を行っていきます。介護職員も予後や死を迎えるプロセスの理解と尊厳を持った、向き合い方を学んでいくように研修をしていく。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している	3	1 4	5		・今後も在宅生活の移行が円滑にできるよう対応を希望。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができる	0	1 0	1 2	0	・家族としては、どのような対応方針をいただいているか情報提供してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている	1	8	13	0	<p>・対応できているとの内容と自己評価に差があり周知できているのか不安な点がある。</p> <p>・あまりできていないと思っている職員に対して、その理由を聞き取り改善してほしい。</p>	<p>✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します</p>
(2) 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている	0	8	14	0	<p>・重要なことは事業所内でのミーティングや文書での回覧など周知徹底すべきである。</p> <p>・レジメを読み上げるだけでなく、もっと活発な発言ができる場所になればいい。</p>	<p>✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します</p> <p>✓ そのような取組をしたいことがな</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
							い場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町 会長などの住民代表も対象です
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている	0	5	15	2	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内の議事録の回覧や次の会議での周知をするべき。 ・欠席者に対して議事録がほしいと R1.1.22 の会議で委員より要望があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている	1	8	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・少しずつ地域からの理解が広がっている気がする。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です ✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的と

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		イベントを企画し積極的に参加していく。					した活動等は除きます
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している						<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	0	5	15	2	・今後の研修にて体制の充実を図ってほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
							<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	0	6	16	0	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者がいない場合でもいざという時に対応できるようにしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	0	3	19	0	<ul style="list-style-type: none"> ・まだ始められたばかりなので、今後の取り組みに期待して家族の相談に乗ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくで

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							きている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している	3	3	16	0	<p>・この問題は管理者と一部の職員以外が理解するには研修が欠かせない。</p> <p>[具体的な状況・取組内容] 研修が充分できておらず、今後の課題とし研修計画を立て職員への理解を促していく。</p>	<p>✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します</p> <p>✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます</p> <p>✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全くできていない」</p> <p>✓</p>
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している	7	15	0	0	<p>現在も限定することなくサービス提供をされている。</p> <p>[具体的な状況・取組内容] 特定の集合住宅等に限定せず地域に対して積極的にサービスを提供している。</p>	<p>✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます</p> <p>✓ 特定の集合住宅等のみを対象とし</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
							ている場合は「全くできていない」
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている	2	3	17		・これからだと思う。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>事業所内での課題改善や活動が主体となっているため、地域までには改善策の提案等がまだできていない。今後は地域との繋がりをサロンや地域行事に参加し地域に溶け込む工夫をしていく。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている。	6	8	8	0	<ul style="list-style-type: none"> ・家族自身が試行錯誤で介護をしている状況の中で専門職として役割を担ってほしい。 ・努力している姿がみられる。 ・事業所としてまだ成長段階にあると思う。職員の皆さんと一緒に知識、技術を習得し頼れる施設になってくれることを望んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない [具体的な状況・取組内容] 利用者が自分でできることを促し、サービス計画に反映させていく。	・ほぼ達成されていると思う	✓ 「計画目標の達成」について、評価します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない [具体的な状況・取組内容] ご家族より、感謝の言葉を頂いているがまだまだご家族や利用者との情報のやりとりを充実させていく必要がある。	・在宅での療養生活においては、日々の利用時等に不安な点を解消していけるよう相互の情報提供が必要。 ・高齢なのでいつ何が起こるか分からない不安がある。	✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない 5. 看取りの希望者はいない	<ul style="list-style-type: none"> ・現在はまだ看取りに対して家族側も相談ができていないが、その前段階として様々な取り組みを行って頂きたい。 ・その時の状況によるが最終的に医療機関に頼ると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します ✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます ✓ 在宅での看取りの希望者がいない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」
		<u>〔具体的な状況・取組内容〕</u> 看取りに対する職員教育や経験等が不十分な為、今後研修等を通じ看取りに対する取り組みを行っていく。		